

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第41号

速報！！ 道仏遺跡の発掘調査

平成23年2月から現在(5月末日)に至る約4ヶ月に渡り、道仏遺跡で発掘調査が続いています。今回の発掘調査は、道仏土地区画整理事業に伴い、新設する道路や拡幅する道路等で行なわれています。

遺跡の範囲は試掘調査等で徐々に明らかと成ってきました。医王院の北側では、遺跡は確認できなかったため、この範囲には遺跡が及んでいないことが明らかとなりました。そして、当時のムラを考える上で大きな成果は、東西から入り込むの谷の存在です。具体的には、医王院前の道路を挟み東側には北東側からの大きな谷が入り込んでおり、医王院の南側にも南西側から小さな谷が入り込んでいます。これらのことから、道仏土地区画整理組合事務所周辺は道仏地区と隔離された島状の台地であったと推定されます。今回、住居跡等が発掘されているのは、この島状の台地のみであることから、この範囲が当時のムラの範囲であったと推定されます。

では、道仏遺跡はいつの時代のムラであったのでしょうか。宮代町では縄文時代の遺跡は各所で発掘されていますが、この道仏遺跡は宮代町では珍しい古墳時代のムラでした。今から、約1,600～1,400年前の古墳時代中期から後期にあたります。畿内では大和王権が成立した頃

から聖徳太子が活躍した飛鳥時代初期の頃です。また、埼玉古墳群の稲荷山古墳で出土した鉄剣も西暦471年とされているので、道仏遺跡で集落が営まれていた時代にあたります。埼玉古墳群の王と道仏ムラとが何らかの関係があった可能性も大いにあり、夢がふくらみますね。



道仏遺跡全景 (11 トレンチ、以下Tと省略)



第21・22号住居跡 土器出土状況 (12T)

道仏遺跡からは、5月末現在で65軒の古墳時代の住居跡が検出されています。一部に古墳時代中期のものがありますが、殆どが古墳時代後期のものです。古墳時代後期の住居跡の特徴はカマドの出現です。それ以前の住居跡にはカマドはなく、炉跡のみでした。



古墳時代中期のカマドのない第17号住居跡 (12T)

道仏遺跡からは非常に状態の良いカマドが発掘されています。その中には、天井の残るカマドや支柱が残るカマド、煙道が残るカマドも発掘されました。



天井が残るカマド (A号住居跡、14T)
(土器が置いてある状態で検出された)



支柱が残るカマド (第19号住居跡、12T)



第6・9・13号住居跡 (10T)



第19号住居跡 (12T)



第16号住居跡 (12T)

この他、古墳時代の井戸から農具と考えられる木製品や、紡錘車、臼玉、祭祀に用いられたミニチュア石製品、土錘、土玉等も発掘されています。



古墳時代の井戸から出土した農具と見られる木製品

郷土資料館では、平成 23 年度第 1 回企画展として「山崎山遺跡」を開催しています。

山崎山遺跡は、宮代町のほぼ中央部にあり、字山崎を中心として字西原、字金原にまたがる広範囲にわたる遺跡です。工場の増築や学校建設、ほ場整備等によって数回の発掘調査が行われ、その結果、旧石器時代から縄文時代後期、古墳時代前期の遺構、遺物が発掘されました。

旧石器時代 ~ 段丘上にある旧石器人の足跡 ~

旧石器時代は、昭和 63 年度、平成 6 年度の調査の際にナイフ形石器等が発掘されました。ことに、平成 6 年度の調査では標高約 7m の台地の段丘上での旧石器時代の石器が出土したのは初めてです。

縄文時代 ~ 広がる後期の集落 ~

縄文時代の遺構、遺物は、各調査地点で発掘されています。昭和 63 年度の調査では、表採ではありますが、2 点の草創期（約 12,000 年前）の尖頭器が出土しました。また、平成 2 年度の調査でも 1 点出土しています。縄文時代で特筆されるのは、昭和 57 年度、平成 2 年度の調査によって 4,000 ~ 3,500 年前の後期の住居跡等が多く発掘されていることです。ことに、昭和 57 年度の調査では約 150 m² の調査範囲から 5 軒の住居跡、3 基の土坑が発掘されました。住居の形も、円形から楕円形へと新しくなるにしたがって変わっていく様子が分かります。



第 6 号住居跡（縄文時代後期中葉 昭和 57 年度調査）



山崎山遺跡遠景（昭和 40 年代末）

古墳時代 ~ 鍛冶工房のあるムラ ~

昭和 57 年度、平成 2 年度の調査によって、古墳時代前期前半の鍛冶工房跡 1 軒、住居跡 8 軒、井戸、同中期住居跡 1 軒等が発掘されました。

ことに、鍛冶工房跡は 4 世紀後半の遺構として関東地方でも数少ない遺構です。羽口、砥石など鍛冶関係の道具や、鉄滓（鉄の不純物のかたまり）や剥片、棒状の鉄製品などが出土しています。また、第 5 号住居跡からも小さな鉄製品が纏まって出土しました。一方、3 号住居跡を中心として出土した「特大の壺」は、大規模な集落で 1 個体程度しか出土しないもので、鍛冶工房跡の存在と考え合わせると、山崎山遺跡は当時の最先端技術を持ったこの地域の中心的な集落であったことがうかがわれます。



砥石とハンマーストーン（鍛冶工房跡出土）



鍛冶工房跡（平成 2 年度調査）

文化財保護委員による 視察・調査がおこなわれました。

平成 22 年 12 月 23 日、文化財保護委員による文化財の視察、調査がおこなわれました。

今回の対象となったのは、西光院と宝生院にある町指定文化財を含む文化財と、資料館において開催中だった特別展「江戸時代の絵図」に展示されていた、大型の絵図などでした。

とくに西光院では、町指定文化財の「西光院中世文書」「西光院朱印状 付抹茶茶碗、徳川家康画像」をはじめとする、数々の文化財について詳細な調査をおこないました。



調査では、文化財 1 点 1 点について大きさを測り、古文書については朱印などの判の形状や状態、使用されている紙の種類などについても調査をしました。町指定文化財になって以来の詳細な調査であり、新しく確認されたこともあったため、予定以上の有意義な調査となりました。

文化財保護委員会では、こういった調査を経て、新しく町指定文化財にするべき文化財の確認をおこなっています。

資料館日誌抄

- 10月30日 特別展「江戸時代の絵図」(12月26日まで)
- 11月20日 ぐるる宮代 みやしろ散策ウォーキング(35名)
- 12月4日 特別展関連講座「絵図から見た宮代町」
- 12月9日 百間中学校総合学習(10名)
- 1月8日 企画展「ひなまつり」(4月17日まで)
- 1月28日 道仏遺跡試掘調査(2月1日まで)
- 2月2日 道仏遺跡発掘調査(現在まで継続中)
- 2月6日 古文書講座(第1回)
- 2月13日 古文書講座(第2回)
- 2月27日 古文書講座(第3回)
- 3月6日 古文書講座(第4回)
- 3月9日 百間小学校3年生資料館見学
- 3月11日 東日本大震災
- 3月12日 臨時休館(3月22日まで)
- 4月15日 百間小学校6年生資料館見学(80名)
- 5月17日 みやしろ大学資料館見学(115名)

資料館寄贈者名簿

- 阿部亜由子氏 民具
- 須賀小学校 学校関係資料

宮代町郷土資料館だより えんがわ 41号

発行日 平成23年5月31日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>